

北海道介護支援専門員協会いよいよ発足

7月22日に北海道介護支援専門員協会の総会があり、小関会長の代行で出席してきました。この日、正式に北海道ケアマネジャー連絡協議会が解散し、北海道介護支援専門員協会へ事業が移管されました。

問題となっていた道ケアマネ会の平成18年度会計の残金については各賛助会員に返金するという意向で、我が帯広市介護支援専門員連絡協議会へも3万円の返金がありました。北海道介護支援専門員協会の新会長には函館市の武田良一氏が、十勝ブロックは帯広市介護支援専門員連絡協議会小関会長が理事を務めることになりました。

協会の活動内容は、道内の介護支援専門員の会員加入促進（現会員数1,286名・目標人数2,500名）を図りながら、①介護支援専門員の資質向上及び社会的地位の向上、②質の高い、公正・中立なケアマネジメントの実現、③利用者主体の介護保険制度の確立と道民福祉の向上となっており、将来的には法人格取得を目指して基盤強化を行います。十勝は会員が37名と貧弱ブロックで今後はまず会員増が目標かと実感しました。

帯広市介護支援専門員連絡協議会の会員の皆様も「個々の専門的知識、技術を高め、また身分を守り支援する職能団体」の北海道介護支援専門員協会に入会しましょう。 副会長 荒 浩美

ケアマネジャーの職能団体として、日本介護支援専門員協会(H17年11月)、北海道介護支援専門員協会(H18年6月)が設立され活動を始めています。帯広市ケアマネ連協は北海道協会の地区連絡組織(賛助会員)になっています。

協会はいま、個人会員の入会を呼びかけています。

介護支援専門員協会入会のおすすめ

皆さんは、介護現場に日々接する中で制度の矛盾を感じていらっしゃるのではないのでしょうか。

制度改善の要望を政府に働きかける上でも、また介護支援専門員の地位確立を図る上でも、職能団体を大きくしていくことが大切です。

あなたの入会を心から呼びかけます！(会費等詳しい内容については、帯広市ケアマネ連協のホームページにも載っていますので、ご覧下さい。)

竹内セミナー十勝場所開催

「認知症を治すケア」

【レポート】

帯広厚生訪問看護
ステーション 後藤 和子



7月28日・29日の2日間、十勝プラザレインボーホールで開催されました。

1日目は認知症総論と認知症のケアについて国際医療福祉大学大学院の竹内孝仁先生の講義。

2日目は事例検討会で、私は数ヶ月前に実行委員会から事例提出の依頼を受け、成功事例ではないので悩みながらの事例提供となりました…。

初日の講義では、認知症を脳の病気と捉えない、生理的ぼけが外因によって「病的なぼけ」となったものであり、脳の病気と捉えればケアは成り立たない。最近の認知症研究からは、ウォーキングや趣味を多く持つことで認知症の発症率が大きく低下しているとの事でした。ケアにおいては、問題行動(症状)が「いつ、どこで、どのような状況で起きているのか」…専門職としての観察力をつけ、苦痛共同体として共にあり、馴染みの安定した関係性と、行動の了解・受容をした上で、認知症のタイプ別ケアが必要である事を学びました。

2日目の事例検討会では、グループホーム・有料老人ホームからの事例3事例と居宅から1事例の発表がありました。

竹内先生の指導の仕方を何度も目にしてきましたので、相当の覚悟を持ちながらもきっと学べる、自分の足りない事、ケアの方向性が明確になればいいと思い挑みました。フロアーから質問や助言を頂け、やはり弱点は見抜かれましたが、どう取り組めばいいのかがわかり、勇気をもらいました。

また、終了後、岡田しげひこ先生からは、「我々在宅支援者は施設の事は考えない。いかに在宅で過ごすかを考え支援する事が大切」との言葉に先生の情熱に触れ、自分はどうかと問いかけました。竹内先生とランチを一緒にし、「発表者もフロアーも皆同じなんだよ。」との言葉に支援者がプロとなる事を誰よりも強く望むからこそ、厳しい言葉の指導になるのかなあとちょっとり先生を理解したような気分になりました。

ケアマネジャー実践セミナー(7/22・札幌)報告

【セミナー概要】

日時：平成19年7月22日(日) 10:00～16:00

会場：札幌プリンスホテル

主催：北海道ケアマネジャー連絡協議会
北海道介護支援専門員協会

地域がケアする時代… ネットワーク構築が課題

ケアサポート・ワンスホーム 松山奈美子

服部万里子氏の講演「介護保険改正後の状況とケアマネジメントのあり方」では、日本人の平均寿命が女性は世界一で85.81歳、男性は世界2位で79.00歳と長寿国であること。昨年介護保険法改正後、要支援1・2のサービス利用率が10～16%減少していること。在宅のケアマネジャーの8割が何らかの虐待事例に接しており、中には生命に危険が及ぶものが27%も含まれるとの調査報告が紹介されました。

また、介護報酬では利益が上がらない仕組みにもかかわらず、大手事業者が収益拡大に走り行政処分を受けている現状についても話されました。

療養病床削減により利用者がたらい回しにされないよう、地域資源を活用し個々人が安全・快適・自分らしい生活を取り戻せる自立支援をめざすことの大切さが強調されていました。地域がケアする時代に突入しましたので、ネットワークの構築が課題だと感じました。また、介護者は支えられている気持ちで感謝の念を感じ、援助者はもっと役に立ちたいと頼られる存在でありたいと思いました。

「自立支援のケアマネジメントを考えるシンポジウム」では、「健康日本21」の食事のバランスと肥満の予防(30代～60代の男性の約3割が肥満)。野菜の1日摂取量350gが摂れておらず、運動量1日1万歩の目標も到達されていないこと、ストレスによる過食・喫煙・アルコール摂取増の問題などの報告を興味深く聞きました。



写真で見る 福祉フェスティバル

9月23・24日、恒例の福祉フェスティバルがとかちプラザで開かれました。そのとき様子を少しだけ、写真で紹介いたします。



作業療法士会の展示スペースは、知恵の輪等、頭の体操に熱心に取り組む高齢者で賑わう



人試オ
気供ム
で品ツ
し提・尿
た供と
コリ
ーナ
ーはト
の大



集手
め上
が軽
てが
いど
ま介
しこ
助に
たパ
ーも
置け
る立
目を
立



食食用エプロン等の日用品コーナーも高齢者は興味津々



約3年ぶりの居宅介護支援事業所 「誰か叱りに来て下さい！」

みやざわ社会福祉士事務所 宮澤英雄

皆さん、ただいま！

特養の相談員に異動してからすっかりご無沙汰していましたが、7月に事業所を開設して、約3年ぶりに居宅介護支援の分野に戻ってきました。

正直に言って3年の間に面接技術は錆び付きましたし、居宅サービスの知識も忘れていまして、お客さんが少ない今のうちにと勉強し直しているところです…が、事務所に一人で音楽をかけながらコーヒー飲み飲み仕事をしていると、ついだらだらしてしまうので誰か叱りに来て下さい。

帯広十勝のケアマネジャーは連協を中心に仲が良くて、いいなあと思います。皆さんに支えていただきながら、また何か僕でお役に立てることがあればお手伝いしますので、今後ともよろしくお願ひいたします。

在宅のお年寄り達に出会って 1年半がたちました。

居宅介護支援事業所ビリーブ 佐藤篤史

ケアマネの仕事は初めて1年半が経ちなんとか皆様の支えでここまで来ることができました。始めたばかりの時にある事業所の先輩にこんな言葉をいただきました。

「利用者と同じ速度で話しができて利用者を取り巻く人の中で、時間を合わせられる職業です。ケアマネにしかできない自分の仕事に誇りを持つ。そしてこれだけは貫き通してください、謙虚にいるから信頼されるし、稲穂のように垂れていることが一番大事ですいつか自分の身に返ってきます」。この先輩の言葉を胸に利用者が笑顔でいられるようこれからも頑張りたいと思います。

編集後記

■先日とある居宅の若いケアマネさんより、ケースに関する相談がありました。「介護者であるお嫁さんが心身共に困憊しやつれていくのがわかるけれど、ショートを予約する以外の支援が思いつかず苦しい…」というものでした。

■まずは愚痴をこぼし、悩みを相談できる仲間(介護者)を作ろうと提案し、そのお嫁さんもそれを希望されたので、まずはおんぶの会(介護者の会)の原口会長に相談したところ、「自宅への訪問でも、会の例会への参加でも、その方の楽な形でいいですよ」とのお返事をいただきました。

■専門職だからできること、専門職じゃないからこそできること…そのあたりを見極めながら、地域やさまざまな社会資源の力を借りながら、これからも地域全体の力で支援を続けたいなあ、改めて感じています(東)